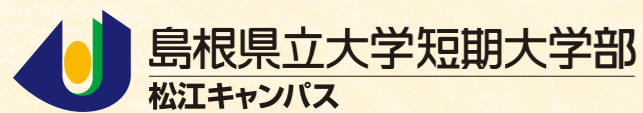


島根県立大学短期大学部 松江キャンパス発

地域研究と 教育

vol.
5



しまね地域共生センター
Shimane Center for Enrichment through Community, The University of Shimane Junior College

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-28-8322

FAX 0852-20-0267

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>



H29年3月版

文部科学省
地(知)の拠点



「地域研究と教育 Vol.5」

はじめに

島根県立大学松江キャンパスは、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3つの学科から構成されており、教育研究にあたる教員34名と事務職員で組織されています。

各教員の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

その中から、近年おこなわれた「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した教育活動を「地域研究と教育Vol.5」と題し、第4版までの内容を更に充実させて編集しました。地域の活性化を支える松江キャンパス教職員一同、さらに学生の活動意欲の高さを地域の皆様に知っていただきたいと思います。

「地域研究と教育」を創刊し、地域と結びついた教員の研究や、COC (Center of Community-地(知)の拠点)としての取り組み実績を発信してきましたが、松江キャンパスの活動についてどの程度ご存知でしたでしょうか。松江キャンパスには3学科が設置されています。それぞれ専門領域の強みを活かし、授業や公開講座の他にも、地域と関わるバラエティー豊かな内容の活動を繰り広げています。その拠点となるのが、学内に設置した「しまね地域共生センター(愛称:しまね縁ラボ)」です。大学と地域を結び、一体的な研究教育活動を推進するプラットフォームです。しまね縁ラボでは教育連携協議や研究連携協議がもたれ、大学・地域の双方から、この地域の課題解決に向けた取り組みをマッチングし、コーディネートすることも行われます。

地方の公立大学として、地域との連携を大切に、地域の文化資源の発見・探求・活用、地域の人材養成等の研究を進め、一層、地域に貢献していきたいと考えていますので、地域の皆様におかれましても、更なる参画、連携をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成29年3月

松江キャンパス副学長 岸本 強

Contents

健康栄養学科



- 鳥獣対策研究を活かした地域への展開 02
- 西条柿熟柿ピューレを使ったキーマカレーの商品化「美肌の国 キーマカレー」 03
- (株)ローソンの産学官連携によるスイーツ&ベーカリー商品化 03
- しまね三味食品科学研究所(籠橋研究室) 04
- 知的財産を地域振興へ 04
- 島根県産つや姫のおいしさ 05

保育学科



- 音への興味関心を育む研究「音のレストラン」の開催 08
- 保育・発達支援における「うた遊び」導入研究 08
- 川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト 09
- 障害児発達支援における人的環境の課題 09
- 雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会 09
- 児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施 10

総合文化学科



- しまねの民話の保存 14
- 松江の文化資源を社会に活かす取り組み 15
- 小泉八雲記念館との連携 15
- 松江の観光客にアンケート調査 16
- 明治時代の文化財「興雲閣」 16
- 地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ 17
- 異文化交流を通じて松江を知る 17
- 異文化体験から学ぶ 17
- 町並み景観を地域資源として再発見する Project Based Learning 18

研究者一覧

- 研究者一覧 23~25

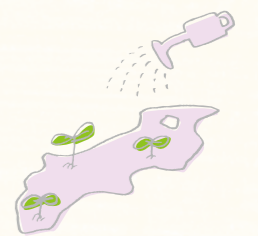
社会教育

- 保小中連携による「ふるさとを基盤にした教育」の開発 26
- 公開講座「椿の道アカデミー」・履修証明プログラム 27

- 有機農業のための技術開発プロジェクト 05
- 小さなブランド化の可能性調査 05
- 食育の情報発信に関する研究 06
- 食育ボードゲームの開発 06
- 「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究 06
- 小学校での食育授業 07
- 患者会への参加 07

- 小学校での「図画工作」特別授業 10
- 島根県障がい者アート作品展 10
- 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会 11
- 松江市保育研究大会 11
- 松江市保育研究会造形展 11
- 第43回ほいくまつり 12
- 松江市子どもとメディア対策協議会への協力 13
- 民話蘇生研究 14

- フィールドワークへのいざない 18
- 五感を使って歴史を学ぶ 19
- 「古事記」「出雲国風土記」を歩く 19
- 地域の文化資源を見つめる 19
- 八雲の原文に触れる 20
- 島根の魅力を英語で発信 20
- 英語絵本の読み聞かせ 20
- 絵本図書館おはなしレストランライブラリーの活動 21
- 絵本の読み聞かせ 21
- 山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲 22



鳥獣対策研究を活かした地域への展開 ～「しまね三昧ジビエ・ガンボスープ」の商品化～



▶ 学術教育研究特別助成金研究・まつえ農水商工連携事業
しまね三昧食品科学研究所(籠橋研究室) × 松江市農水商工連携推進協議会
× 島根大学教育学部附属小学校 × カレー工房ダーニャ

ジビエ活用大作戦!

健康栄養学科

食品の機能性・加工方法

卒業研究(籠橋研究室)

家畜や野生鳥獣の食味研究

野生鳥獣の有効利用が
求められている。

野生鳥獣を使った食品の商品開発

全国的に活用が求められている野生鳥獣の有効利用を目指して、ジビエの機能性を理化学分析および官能評価により探索しています。平成27年度からは、松江市との連携により、猪肉の機能性を活かした食品開発に取り組んでいます。



第一弾として、小泉八雲が残した文献をもとに、しまね三昧ジビエガンボスープを作成しました。カレー工房ダーニャとの連携でレトルト食品として商品化し、小泉八雲記念館や島根県観光物産館等で販売しています。また、島根大学教育学部附属小学校との連携により、学校給食へも展開し、9月には松江市の給食センターを通じて市内小学校にも提供されました。

協力: 松江市八雲猪肉生産組合、島根県立大学短期大学部総合文化学科小泉凡教授

西条柿熟柿ピューレを使ったキーマカレーの商品化 「美肌の国 キーマカレー」



健康栄養学科食品学研究室では、近年、島根県特産の西条柿を使った加工食品の開発に取り組んでいます。このたび、西条柿熟柿ピューレと松江市特産の秋鹿ゴボウを使ったキーマカレーを開発し、松江市農水商工連携事業の支援を受けて商品化されました。この開発は、履修科目「卒業研究」の課題の一つで、健康栄養学科の3人の学生が中心となって行いました。完成したキーマカレーは、西条柿熟柿ピューレの自然な甘さと、ピューレの加熱によって生まれる弱いつろみ、これに秋鹿ゴボウのさわやかな香りと軟らかな食感が特徴の、ややスパイシーなカレーに仕上がっています。また、キーマカレーはひき肉のカレーなので、ゴボウはみじん切りです。西条柿熟柿ピューレを使ったカレーは、全国的に見て類がなく、この熟柿ピューレと松江でしか生産されない秋鹿ゴボウを組み合わせた「美肌の国 キーマカレー」は、まさに松江のご当地カレーと言えるでしょう。



(株)ローソンとの産学官連携による スイーツ&ベーカリー商品化

▶ 学術教育研究特別助成金研究

株式会社ローソン × 島根県立大学短期大学部しまね三昧食品科学研究所(籠橋研究室)
コンビニエンスストアでの販売を前提として島根の農産物を使ったスイーツとベーカリーを考案!



健康栄養学科籠橋研究室で卒業研究として県内農産物の研究→(株)ローソンへの発案・試作の依頼→連携して試作品を絞り込み→ぜんざい風デニッシュパン(島根県産米粉を使用)&豆乳ホイップエクレア(島根県産いちじくを使用)の完成/県庁での試食会を経て、10月から中四国全域のローソンで販売されました。



しまね三昧食品科学研究所(籠橋研究室) ～「しまね県内農産物」で美味しく地域活性化～



- ▶ 島根県・島根県畜産技術センターとの共同・受託研究
- ▶ 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究

1. 食味研究 ～食肉(しまね和牛・ジビエなど)や島根米などを中心とした
県内農産物の特性や美味しさを科学的に検証～
2. 教育活動を通じて地域と連携 ～地域の食材の良さを知り活かせる人材の育成～
3. 地域への発信 ～地域の農産物の特性を活かした調理加工方法の提供・商品開発～

食味研究・教育活動 -卒業研究活動から調理加工品の考案へ-

しまね和牛から始まった地域活性化!



企画・商品化したもの

- 第一弾!しまね三昧カレー
- 第二弾!しまね三昧リエット
- 第三弾!しまね三昧ジビエ・ガンボスープ
- 第四弾!ぜんざい風デニッシュパンと島根県産いちじくの豆乳ホイップエクレア
- 第五弾!まつえ宝刀開発中 乞うご期待

知的財産を地域振興へ 糖尿病予防に対する地域からのニーズに応える

- ▶ 新産業創出研究会助成研究
- ▶ 学術教育研究特別助成金研究

全国的に糖尿病有病率の高い島根県での健康寿命の延伸を目指して、糖尿病予防のための研究を産学官連携で行っています。平成24年に2件の特許を取得、平成25～27年度は技術シーズ発表会への参加や新産業創出研究会からの助成金により実用化商品の試作を行いました。平成28～29年度は新たな知財への展開や商品の教育・研究への活用を検討しています。

島根県産つや姫のおいしさ

- ▶ COCしまね地域共育・共創研究助成金研究
- ▶ 島根県受託研究



平成25年度から、島根県産つや姫の食味の科学的評価に取り組んでいます。平成26年度からは、食味ランキング(日本穀物検定協会主催)出品材選定のための島根米食味向上コンテスト選抜審査に協力し、島根県産「つや姫」は一般財団法人日本穀物検定協会主催の食味ランキングにおいて、2年連続最高ランクである「特A」を取得しました。また、全国つや姫フォーラムでの研究成果発表を行い、平成28年度産米についても引き続き炊飯米の評価をしています。



理化学分析

テンプレッサーで炊飯米の食感(粘りと硬さ)を機械的に測定しました。



官能試験

「コシヒカリ」「つや姫」「きぬむすめ」を実際に食べて評価し、粘り、香り、味などのおいしさを構成する要素を検討しました。

有機農業のための技術開発プロジェクト

- ▶ COCしまね地域共育・共創研究助成金研究
- ▶ 島根県農業技術センターとの共同研究

島根県では、有機農業を県農業の柱の一つとして推進する取り組みが、平成24年度から本格的にスタートしています。有機農業の推進、オリジナル品種(品目)の開発を推進していくために平成26年度から、島根県、島根県農業技術センターと共同し、有機農産物、オリジナル品種(品目)の食味等に関する分析を行い、有機農業、商品のPR、食味向上に取り組むこととしました。平成26年度は、「トマト」及び「メロン」の官能評価、平成27年度からは有機米の食味について理化学分析を行っています。



小さなブランド化の可能性調査 - 棚田米を事例にして -

浜田市旭町坂本地区は、地域の高齢化および人口減少が問題となっている。若い定住者を呼び込みたいが、新規の定住者が一定の収入を得るビジネスモデルを構築しないままでは、安定的な定住は望めない。坂本地区では良質な米が栽培されているが、JAの買い取り価格は一定のため、農業で生計が立てられるほどの収入を確保することは難しい。そこで、浜田キャンパスの豊田研究室と松江キャンパス健康栄養学科の酒元研究室が共同で、坂本で栽培される米の高付加価値化の可能性をさぐる研究を実施中である。





食育の情報発信に関する研究

- ▶ 学術教育研究特別助成金(共同研究)
- ▶ 島根県受託研究

島根県では、「若い世代への食育の推進」を重点課題として食育の取り組みを進めています。島根の食について若者にも興味をもってもらいたい。健康栄養学科の学生による“島短食レポ隊”が県内各地を取材し、「おいしい・たのしい・ためになる」食育体験を情報発信することとしました。教員と学生が2年間にわたり島根県内10か所以上を巡り、地域おこしに力をいれる豆腐屋さんや地産地消に取り組む農家さん、シジミ漁師さんなど食に携わる人たちの取材や、味噌作り、ジャム作りなどを体験し、改めて実感した、若者が伝えたい島根の食について記事にしました。若者から若者へ伝えることで、若い世代が食を身近に感じ、食を通して島根の魅力を再発見してくれることを目的としています。これから、その効果も検証していきます!



食育ボードゲームの開発

- ▶ 学術教育研究特別助成金(共同研究)

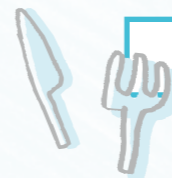


食について家庭で話すきっかけにしてほしい、食と健康に興味・関心を持つ子が増えるようにと、学生が願いと学びを込めて「食育ボードゲーム」(すごろく)を制作しました。食生活の背景にある様々な問題から、食に興味のない子どもが増えています。ボードゲームを通じて、楽しく、食に関する知識を得る、人との関わり、島根県の特産品を知ることを目的としています。ボードゲームは、島根県を旅しながら、特産品を探していくストーリーです。家庭用・学校用と2種類制作し、対象や用途に応じて使い分けできるようにしました。楽しかった! またやりたい! という声をもらうと作って良かった! と思える瞬間です! 実際に学校や家庭、イベントで子どもたちや家族で遊んでもらいながら効果を検証しています。

「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究

- ▶ 学術教育研究特別助成金研究

日本各地には古くからその地の風土で育まれた食材を使った家庭料理が多くあります。現代ではそれらの家庭料理が次世代へ継承されない懸念があるため、日本調理科学会活動の一環として「伝え継ぐ日本の家庭料理」を全国一斉に発信する取り組みを行っています。島根県では島根県栄養士、島根県食生活改善推進協議会と共に「食つづり」や島根県HP掲載のレシピを参考に東部、西部、隠岐地域に分けて伝え継ぐべき家庭料理40品を選定しました。今後は現地で実際に調理、撮影を行い出版物の完成を目指します。



小学校での食育授業



乃木小学校での食育授業は、湖南中学校、乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに今年度で10年目を迎えます。小学5年生を対象に、健康栄養学科2年生3、4名と教員で授業を進めていきます。これまでに「食事のあぶら」「生体リズム」「朝ごはんの大切さ」などのテーマで楽しく勉強してきました。すこし難しい内容でも真剣に授業に取り組んで、最後にはユニークな質問がたくさん出てきます。これまでに「体内時計は何でできているの?」「同じものばかりを食べていたらどうなるの?」などの質問がありました。学生は2年間勉強してきた知識をふり絞り、授業や質問に答えるなど、とても貴重な経験をさせてもらい自信にも繋がっています。

平成27年度には、安来市立能義小学校の3年生~6年生と保護者、地域の方を対象に「朝ごはんの大切さ」について食育授業を行いました。地域みんなで朝ごはんについて学んでもらうことで、より一層朝ごはんの大切さについて考えてもらえるきっかけになりました。お手軽に作れる朝食レシピの紹介や質問の時間も設けて、みんなで楽しく学ぶことができました。



患者会への参加

食は生きる上でとても大切です。食事の自己管理が必要な疾患を抱える患者さんたちは、適切な知識と技術を身に付けるとともに、日々の生活の中で、食事療法を実践していくことが求められています。上手に楽しく、おいしく食べるためには! 毎年、小児糖尿病大山サマーキャンプや炎症性腸疾患患者会などの患者さんの会に、教員と学生がボランティアとして参加し、一緒に学んでいます。栄養士を目指す学生にとって、やりがいがあり、貴重な勉強の機会となっています。



健康栄養学科1年生の調理実習にも、宍道湖七珍を用いた献立やワレットや香茸など島根県特産の食材を使った料理を取り入れて学生に島根県の家庭料理を伝えています。



音への興味関心を育む研究 「音のレストラン」の開催

▶ 学術教育研究特別助成金研究

子どもにとって身体を通して体験することは、心身の成長に深く関わってきます。音楽の生演奏もその1つであり、テレビ画面を通して聞く音楽とは違う臨場感を味わうことができます。

また、親子で楽しみながら音楽体験を共有することが、音への興味関心を育む一歩となります。しかし、就学前の子どもが入

れるコンサートはさほど多くありません。そこで本研究では「音のレストラン」コンサートを開催し、大きなホールを会場とするのではなく、地域の子育て支援の場として利用されている施設を利用して、プロの演奏家による質の高い音楽と絵本を組み合わせた独自のプログラムで音楽を通じた親子のコミュニケーションを育む場を探求しています。



保育・発達支援における「うた遊び」導入研究

▶ 学術教育研究特別助成金(共同研究)

本研究は、うた遊びを保育に導入するための教材を制作し、養成課程の学生と保育現場の教員・保育士がこの教材を共通して持つことで、今後、うた遊びが保育実践において大いに活かされ、指導計画から保育記録まで、一貫性のある指導が行われることを目指した共同研究である。松江市幼稚園長1名、保育所長1名と学内教員3名で共同研究を行い、うた遊びの選考と指導案作成に関する検討を行っている。「保育内容・表現」での教材としてうた遊び手帳の導入、うた遊びのアレンジなどを通じた指導法の検討、文化財としてのうた遊びの保育における伝承の意義、人との関わりと発達の観点からのうた遊びの位置づけを検討している。



川本町における インクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト

▶ 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究

平成26年度から、川本町健康福祉課・教育委員会・川本小学校通級指導教室・川本町保育研究会と共同研究を開始している。平成27年度中は、川本町全体の乳幼児期の発達分析を行い、課題解決のための相談支援ファイルとして『ゆうゆう手帳』を開発的に制作し、試行しながら完成版制作への研究を進めている。小児神経医療などの発達専門機関から遠い地域で、母子保健・保育所・小学校通級指導教室が手を携えて困難事例の保護者支援にあたるための、有効なツールとなりつつある。



障害児発達支援における人的環境の課題

島根県の「障害児」保育・支援の専門職に焦点をあて、平成26年度に県内の市町村の健康福祉行政部局と教育委員会を対象に、0歳から就学前までの健診体制と発達相談・教育相談体制に関する質問紙調査を実施しました。島根県のこの領域での人的環境の課題を分析するとともに、しまね地域共生センターの研修プログラム開発に活かしています。

【調査協力16市町】

海士町、西ノ島町、安来市、松江市、出雲市、雲南市、奥出雲町、飯南町、大田市、江津市、川本町、邑南町、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町

雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会

▶ 文部科学省委託事業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」

雲南市における文部科学省委託事業・幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業の幼児期運動指針実践調査研究委員会委員として岸本教授が参画しています。

平成26年度までに「理論編」が作成され、平成27年度からは「実践編」の策定が行われています。

平成27年度から「子ども政策局」が新たに設置された雲南市では、地域の自然や人材を活用した子どもの育成、関わる人の支援まで幅広い視野をもった取り組みが進められています。



児童養護施設職員向け 養育支援プログラムの開発と実施

▶ 島根県との連携事業

児童養護施設では保護者のいない子ども、家庭の事情から保護者と生活できない子どもが集団で生活しています。その中で、一人ひとりが個別の存在である多様な子ども達の心身の育ちと自立を支えるのが施設の職員です。児童養護施設安来学園、島根県中央児童相談所と本学保育学科教員の協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践が行われています。



小学校での「図画工作」特別授業

▶ 文化庁派遣事業

文化庁『芸術家学校派遣事業』によって福井一尊准教授(美術工芸研究室)が松江市立大谷小学校に図画工作科の特別講師として派遣されました。同研究室所属の学生6名とともに全校生徒を対象とした「造形あそび ～ワクワク、モコモコ、キラキラ～」の授業を実施しました。視覚、聴覚、身体感覚を使ったカラフル巨大風船の制作を通して、初等学校教育における「造形あそび」の意義や学習効果を示しました。光と色の美しさに気づける楽しい活動となり、達成感を参加者全員で共有しました。



島根県障がい者アート作品展

県内全域から作品が寄せられる「島根県障がい者アート作品展」(主催:島根県社会福祉協議会)の公開審査において、保育学科美術担当教員が審査委員長として協力しています。本年度で6回目を迎えた本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進められます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者を楽しんでもらっています。また、毎年作品集を発刊し、アールブリュット(生の芸術)の魅力と可能性を広く紹介しています。



島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所(園)、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行っています。保育学科美術担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加しています。

選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。



松江市保育研究大会

平成27年11月の第9回同大会では、矢島毅昌准教授が袖師保育所で指導助言者を、平成28年11月の第10回同大会では、小山優子准教授が嵩見保育所で指導助言者を務めました。分科会では、担当園(所)の研究発表後にグループ討議と全体会があり、活発な討議が行われました。また、三人の教員は研究大会までに各園(所)内研究会の講師も担当し、指導助言を行いました。



松江市保育研究会造形展

毎年1月に島根県立美術館にて、本研究会に加盟する全保育園(所)の園児の造形表現を展示する作品展が開催されています。この作品展では、園児の描画作品はもちろん、立体作品や、園の枠組みを超えて作り上げる巨大な壁面装飾作品を展示公開しており、大変多くの来場者に親しまれています。その作品展開催に向けて、50園以上の加盟園職員を対象として、子どもへの造形指導のための講義や解説、また展示、飾り付けの方法についての指導を保育学科美術担当教員が行っています。



第43回ほいくまつり

全人的保育者養成を目指して
—ほいくまつりという総合表現活動の取り組み—

「ほいくまつり」とは

- 保育学科の教育理念を体現するシンボリック的教育活動です。
- 毎年6月に開催しており、県下最大級の大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様に溢れます。
- 構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。43年間、変わらない4本柱として受け継がれています。
- 本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、学生全員が自治的・自主的に取り組み、全教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。



平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択

取り組みの特徴

- ◆ 毎年6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。
楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。
- ◆ 40年以上の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子を持って再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取り組むといったことも出現しています。
- ◆ 保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限らない魅力を放っていると言えるでしょう。



松江市子どもとメディア対策協議会への協力

松江市では、「子どもとメディア」対策協議会を立ち上げ、電子メディアが子どもに及ぼす影響を踏まえて、正しい生活習慣の確立や、情報を正しく活用することのできる幼児、児童及び生徒の育成に社会全体で取り組むことを推進しています。そこで昨年度は啓発ポスターを作成することとなり、本学科美術工芸研究室と連携し、所属学生が「子どもとメディア」についての講習を受けたり、協議会と意見交換を重ねたりしながらデザインを考え、学内での研究成果も生かして仕上げました。完成した7種類のデザイン案は協議会内コンペを経て、一枚のポスターが完成しました。このポスターは松江市内に広く細かく配布・掲示され、啓発に役立てられています。



音への興味関心を育む研究 「音のレストラン」の開催

▶ 学術教育研究特別助成金研究

子どもにとって身体を通して体験することは、心身の成長に深く関わってきます。音楽の生演奏もその1つであり、テレビ画面を通して聞く音楽とは違う臨場感を味わうことができます。

また、親子で楽しみながら音楽体験を共有することが、音への興味関心を育む一歩となります。しかし、就学前の子どもが入

れるコンサートはさほど多くありません。そこで本研究では「音のレストラン」コンサートを開催し、大きなホールを会場とするのではなく、地域の子育て支援の場として利用されている施設を利用して、プロの演奏家による質の高い音楽と絵本を組み合わせた独自のプログラムで音楽を通じた親子のコミュニケーションを育む場を探求しています。



保育・発達支援における「うた遊び」導入研究

▶ 学術教育研究特別助成金(共同研究)

本研究は、うた遊びを保育に導入するための教材を制作し、養成課程の学生と保育現場の教員・保育士がこの教材を共通して持つことで、今後、うた遊びが保育実践において大いに活かされ、指導計画から保育記録まで、一貫性のある指導が行われることを目指した共同研究である。松江市幼稚園長1名、保育所長1名と学内教員3名で共同研究を行い、うた遊びの選考と指導案作成に関する検討を行っている。「保育内容・表現」での教材としてうた遊び手帳の導入、うた遊びのアレンジなどを通じた指導法の検討、文化財としてのうた遊びの保育における伝承の意義、人との関わりと発達の観点からのうた遊びの位置づけを検討している。



川本町における インクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト

▶ 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究

平成26年度から、川本町健康福祉課・教育委員会・川本小学校通級指導教室・川本町保育研究会と共同研究を開始している。平成27年度中は、川本町全体の乳幼児期の発達分析を行い、課題解決のための相談支援ファイルとして『ゆうゆう手帳』を開発的に制作し、試行しながら完成版制作への研究を進めている。小児神経医療などの発達専門機関から遠い地域で、母子保健・保育所・小学校通級指導教室が手を携えて困難事例の保護者支援にあたるための、有効なツールとなりつつある。



障害児発達支援における人的環境の課題

島根県の「障害児」保育・支援の専門職に焦点をあて、平成26年度に県内の市町村の健康福祉行政部局と教育委員会を対象に、0歳から就学前までの健診体制と発達相談・教育相談体制に関する質問紙調査を実施しました。島根県のこの領域での人的環境の課題を分析するとともに、しまね地域共生センターの研修プログラム開発に活かしています。

【調査協力16市町】

海士町、西ノ島町、安来市、松江市、出雲市、雲南市、奥出雲町、飯南町、大田市、江津市、川本町、邑南町、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町

雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会

▶ 文部科学省委託事業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」

雲南市における文部科学省委託事業・幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業の幼児期運動指針実践調査研究委員会委員として岸本教授が参画しています。

平成26年度までに「理論編」が作成され、平成27年度からは「実践編」の策定が行われています。

平成27年度から「子ども政策局」が新たに設置された雲南市では、地域の自然や人材を活用した子どもの育成、関わる人の支援まで幅広い視野をもった取り組みが進められています。



児童養護施設職員向け 養育支援プログラムの開発と実施

▶ 島根県との連携事業

児童養護施設では保護者のいない子ども、家庭の事情から保護者と生活できない子どもが集団で生活しています。その中で、一人ひとりが個別の存在である多様な子ども達の心身の育ちと自立を支えるのが施設の職員です。児童養護施設安来学園、島根県中央児童相談所と本学保育学科教員の協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践が行われています。



小学校での「図画工作」特別授業

▶ 文化庁派遣事業

文化庁『芸術家学校派遣事業』によって福井一尊准教授(美術工芸研究室)が松江市立大谷小学校に図画工作科の特別講師として派遣されました。同研究室所属の学生6名とともに全校生徒を対象とした「造形あそび ～ワクワク、モコモコ、キラキラ～」の授業を実施しました。視覚、聴覚、身体感覚を使ったカラフル巨大風船の制作を通して、初等学校教育における「造形あそび」の意義や学習効果を示しました。光と色の美しさに気づける楽しい活動となり、達成感を参加者全員で共有しました。



島根県障がい者アート作品展

県内全域から作品が寄せられる「島根県障がい者アート作品展」(主催:島根県社会福祉協議会)の公開審査において、保育学科美術担当教員が審査委員長として協力しています。本年度で6回目を迎えた本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進められます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者を楽しんでもらっています。また、毎年作品集を発刊し、アールブリュット(生の芸術)の魅力と可能性を広く紹介しています。



島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所(園)、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行っています。保育学科美術担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加しています。

選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。



松江市保育研究大会

平成27年11月の第9回同大会では、矢島毅昌准教授が袖師保育所で指導助言者を、平成28年11月の第10回同大会では、小山優子准教授が嵩見保育所で指導助言者を務めました。分科会では、担当園(所)の研究発表後にグループ討議と全体会があり、活発な討議が行われました。また、三人の教員は研究大会までに各園(所)内研究会の講師も担当し、指導助言を行いました。



松江市保育研究会造形展

毎年1月に島根県立美術館にて、本研究会に加盟する全保育園(所)の園児の造形表現を展示する作品展が開催されています。この作品展では、園児の描画作品はもちろん、立体作品や、園の枠組みを超えて作り上げる巨大な壁面装飾作品を展示公開しており、大変多くの来場者に親しまれています。その作品展開催に向けて、50園以上の加盟園職員を対象として、子どもへの造形指導のための講義や解説、また展示、飾り付けの方法についての指導を保育学科美術担当教員が行っています。



第43回ほいくまつり

全人的保育者養成を目指して
—ほいくまつりという総合表現活動の取り組み—

「ほいくまつり」とは

- 保育学科の教育理念を体現するシンボリック的教育活動です。
- 毎年6月に開催しており、県下最大級の大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様で溢れます。
- 構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。43年間、変わらない4本柱として受け継がれています。
- 本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、学生全員が自治的・自主的に取り組み、全教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。



平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択

取り組みの特徴

- ◆ 毎年6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。
楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。
- ◆ 40年以上の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子を持って再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取り組むといったことも出現しています。
- ◆ 保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限らない魅力を放っていると言えるでしょう。



松江市子どもとメディア対策協議会への協力

松江市では、「子どもとメディア」対策協議会を立ち上げ、電子メディアが子どもに及ぼす影響を踏まえて、正しい生活習慣の確立や、情報を正しく活用することのできる幼児、児童及び生徒の育成に社会全体で取り組むことを推進しています。そこで昨年度は啓発ポスターを作成することとなり、本学科美術工芸研究室と連携し、所属学生が「子どもとメディア」についての講習を受けたり、協議会と意見交換を重ねたりしながらデザインを考え、学内での研究成果も生かして仕上げました。完成した7種類のデザイン案は協議会内コンペを経て、一枚のポスターが完成しました。このポスターは松江市内に広く細かく配布・掲示され、啓発に役立てられています。



民話蘇生研究

— 匹見町道川地区と邑智郡大和村の民話の復刻と再生 —

- ▶ COCLしまね地域共育・共創研究助成金研究
- ▶ 学術教育研究特別助成金(共同研究)

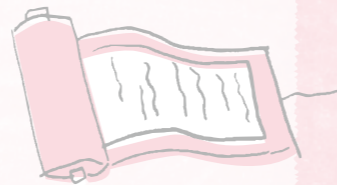
昭和50年代に民話の書き起こし研究を残した本学卒業生の協力を得て、かつての手書き記録集「島根県美濃郡匹見町昔話集稿：道川地区」「島根県邑智郡大和村昔話集稿-第1巻：比敷・宮内・村之郷地区」をワープロソフトにより、デジタルデータ化し、かつての方言資料を現在の子どもたちに伝承文化として残し、民話を生活体験の中に蘇生させるための検討を行っている。平成27年度は、「島根県美濃郡匹見町昔話集稿：道川地区」をすべてWordファイルにしたCD再録版冊子と音源CDを完成させ、益田市立匹見町学校生徒と道川小学校生徒の皆さん、教員と公民館の皆さんに届ける事業を実施した。



しまねの民話の保存

— 民話音源のデジタル化 —

- ▶ 学術教育研究特別助成金研究



松江キャンパスには、島根の古老たちが語った民話を録音したカセットテープが数多くあります。島根大学名誉教授で、今から40年ほど前に島根の民話採集を行った田中瑩一先生からお借りしたものです。隠岐・出雲・石見と島根県内を隈なく歩いて集めた民話の数はおよそ6000話、テープは400本を超えます。テープは劣化が進み、このままでは収められた話の再生も難しくなるため田中先生と協力しながらテープのデジタル化に着手したところです。すでに石見部のテープのデジタル化を終え、その一部をCDにして、上記記事のとおり、地元の子供たちに聞いてもらいました。なかには曾祖父の音がCDに収められていた子供もいて、民話音源がつかない縁となりました。

松江の文化資源を社会に活かす取り組み

— ハーン研究と地域貢献 —

- ▶ 学術教育研究特別助成金研究

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を島根の人的資源として観光文化の振興や文化の創造に活かす実践研究に取り組んでいます。NPO法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を聞きながら歩く夜のツアーで、8年間で291回実施し、4797名が参加する(2016年11月末)人気の着地型観光プランとして定着しています。また、2015年6月には、アイルランド南部ウォーターフォード県のトラモアにハーンの人生を9つの庭で表現した「小泉八雲庭園」がオープン。同年10月には松江市から贈られたレリーフの寄贈式が行われました。また、首都のダブリンでは、松江市の協力によ



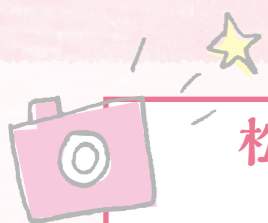
る「The Open Mind of Patrick Lafcadio Hearn-Coming Home-」をテーマとする特別展とシンポジウム、小泉八雲朗読ライブを開催し、ハーン・島根・日本の魅力を紹介しています。



小泉八雲記念館との連携

本学では2016年8月、リニューアル・オープンした松江市奥谷町の小泉八雲記念館と協定を結び、教育・研究・広報の面で連携を深めていくことになりました。その後10月までに、本学の「おはなしゼミ」の学生による怪談の読み聞かせや「小泉八雲入門」の授業も同記念館で実施されました。





松江の観光客にアンケート調査 —観光まちづくり学—

NPO法人松江ツーリズム研究会の依頼を受け、松江市内観光施設の訪問者の実態を把握するために、アンケート調査を行っています。平成25年度から27年度は松江カラコロ工房で、平成28年度は興雲閣で実施しました。その後、学生たちはグループに分かれて、訪問者の出発地（松江市内、島根県内、県外、海外）別の特徴を分析し、成果報告会で発表し、報告書にまとめました。



明治時代の文化財「興雲閣」 —歴史的建造物の検証・インテリアと文化—

平成26年には、史跡松江城内に立地する島根県指定有形文化財である明治時代の木造建築の「興雲閣」の保存修理工事現場を、松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課のご厚意により見学しました。普段はみられない床板や壁紙をはずした様子、天井裏の小屋組の構造や継手等を間近で学ぶ貴重な体験となりました。平成27年秋には修復工事が竣工し、白壁から当初の淡い綺麗な緑色に復元されました。今年度は、室内意匠の学習で、窓装飾や、耐震補強のための鉄骨柱の内観上の配慮に注目しました。



地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ —へるん探求—

山陰地方にゆかりの深い作家へるん（小泉八雲）の足跡地の探訪を通し、ゆかりの地における小泉八雲の文化資源的活用について、体験的に学ぶことを目的としています。具体的には、島根県の出雲大社・日御碕神社・一畑薬師、鳥取県日野町の幽霊滝、琴浦町の八橋海岸、大山町の妙元寺などのゆかりの地を前期・後期各1回ずつ訪問し、現地専門家のレクチャーや地域の関係者との交流を通して、地域文化の継承・発信、八雲の資源的活用の意味を探求します。



異文化交流を通じて松江を知る —アジア文化交流—



中国・台湾・韓国・ロシア・アメリカからの研修学生と短期大学部の学生が、交流しながら学びます。研修学生は、県立大学浜田キャンパスの「短期日本語・日本研修プログラム」で来日します。1泊2日の合宿での文化紹介、松江市内ツアー、成果発表を通じて交流を深め、互いの国の文化理解へとつなげていきます。市内ツアーは、短大生がテーマに基づいてプランを立て、松江を紹介することを通じて、自らの文化と地域を再発見しています。

異文化体験から学ぶ —アジア文化演習—

夏季休暇中に1週間、日本に近くて縁の深い中国（北京）と韓国（ソウル・仁川）を訪問します。北京では、世界遺産（故宮博物院、万里の長城）の見学、京劇や雑技などの民族文化の鑑賞を行うことで、伝統文化への理解を深めます。さらにそこに住む人々の暮らしを理解するために、地下鉄や路線バスを使って下町や市場などにも足を伸ばし、人々と交流しながら日常生活について観察・記録をします。異文化体験をすることで他者理解を深め、口頭発表やレポートを通じて自己表現をする力も同時に磨いていきます。



町並み景観を地域資源として再発見する Project Based Learning —JR西日本主催「山陰みらいドラフト会議」—

地域資源として町並み景観を捉え、実地調査を踏まえたPBLのためのプロジェクトとして、JR西日本による4大学7チームによるコンテストに参加し二年連続特別賞を受賞しました。平成27年度は、歴史的町並み景観調査に出雲市、松江市、米子市へ出掛け、駅弁について松江の老舗一文字家様に教わりました。平成28年度は、重要伝統的建造物群保存地区の鳥取県倉吉白壁土蔵群と岡山県津山市城東地区にある文化財住宅の内部と家並みに加えて、津山まなびの鉄道館へ現地調査に行ってきました。半年かけてグループ作業を行い、企業からの中間ヒアリング、報告書の提出、プレゼンテーションと盛りだくさんで、地域と企業の両方から得られる効果が大きいプロジェクト学習です。



平成28年度 米子ガイナックスシアターでの発表



平成27年度 出雲市今市・大津現地調査

フィールドワークへのいざない —地域探検学—

奥出雲町でのフィールドワークを、夏季休暇中に2泊3日で行います。グループに分かれて、農家を訪問して聞き取りを行ったり、担当地区を五感を使って調査したりしながら、奥出雲について学んでいきます。調査結果は、地域の方々をお招きした成果発表会で報告します。奥出雲では、このほかにも、農作業体験、そば打ち体験、たたらと刀剣館での学習なども行います。学生はフィールドワークの楽しさと難しさ、地域の文化と地域が抱える問題について考える重要性を学びます。



五感を使って歴史を学ぶ —松江の文化と歴史・しまね歴史探訪—

総合文化学科1年生を対象とする科目「松江の文化と歴史」、2年生を対象とする科目「しまね歴史探訪」とも、フィールドワークと学生によるプレゼンテーションを実施しています。その目的は、五感を通じた地域の歴史の体得と、地域の歴史を発信する実践力の育成にあります。学生は松江（松江の文化と歴史）／石見銀山・津和野（しまね歴史探訪）のフィールドワークに参加し、自分たちの視点でそれぞれの地域を紹介します。



「古事記」「出雲国風土記」を歩く —日本古典文学—

山陰は古代の神話のひとつの舞台となります。「日本古典文学を歩く」(2年後期)の授業では、『古事記』の出雲神話や『出雲国風土記』の国引き神話を読み、関わりの深い場所を実際に歩きます。黄泉比良坂や和鋼博物館でイザナキ・イザナミ神話を学び、雲南市の八岐大蛇伝承地でスサノヲ神話を学びます。美保神社ではオホクニヌシやコトシロヌシについて学びました。テキストを読むだけでなく、神話を立体的に捉えること、現代にどのように受け継がれているかを把握することが、この授業の目的です。



地域の文化資源を見つめる —日本文化演習—

平成26年度は、芸術文化の理解を目的として、島根県立美術館の見学を実施しました。美術における女性の表現や、郷土の画家の作品、また水を画題とする絵画等を鑑賞しました。また、宍道湖畔の景観と調和した美術館の建築を通して、「水と調和する美術館」という島根県立美術館の基本的な性格の一つに、触れることができました。



八雲の原文に触れる —へるん作品鑑賞—



この授業では、松江ゆかりの作家ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の作品を原作と翻訳で味わいます。山陰のことを描いた多くの章を含む来日初期の頃の作品『知られぬ日本の面影』には、松江や出雲、山陰地方の美しさがロマンティックな筆致で描写されていますが、その美しさを描くときに使われる特徴的な語彙群があり、授業担当者はそれを「まぼろし系」言語と呼んでその言葉づかいを授業で扱い、ハーンとハーンの愛した日本への理解を深めようとしています。



島根の魅力を英語で発信 —観光フィールドトリップ—

この授業では、英語を話す外国からのゲストを招いて、地元ならではの情報も加えて、島根県内の観光地の英語での案内を試みます。県の内外からやって来た学生たちは、学ぶ中で島根の良さを新しく知ったり、再発見したりします。平成28年度は、英語文化系1年生が外国人ゲスト達と浜田市と邑智郡邑南町を訪れ



ました。石州和紙の伝統的製造法の全行程を体験できる石州和紙会館、神楽衣装や道具の制作販売を担う神楽ショップくわの木、シロイルカやアシカ・アザラシのパフォーマンスで人気の島根県立しまね海洋館アクアスなどを巡る、1泊2日の旅行でした。事前研修で案内の練習、旅行中は英語でガイドの実践をして、旅行後は英語で報告書作成をするというプログラムです。地域観光の国際化に貢献していきます。

英語絵本の読み聞かせ —キッズ・イングリッシュ—

英語文化系の「キッズ・イングリッシュ」受講生は、松江市立乃木小学校の「朝の読み聞かせ」の時間に、英語の絵本の読み聞かせ活動をしています。英語が小学校の授業でも取り入れられ、子供たちの英語に対する関心も高まっています。児童たちも一緒に英語を楽しめるように工夫しての読み聞かせで、地域の英語教育に少しでも貢献していきたいと思えます。松江キャンパスの「おはなしレストランライブラリー」では、小さな子供たちも参加できる「English Story Time」も実施しています。



絵本図書館おはなしレストランライブラリーの活動 —小泉八雲記念館で怪談読み聞かせ—

総合文化学科のおはなしゼミは、松江市の小泉八雲記念館と共同で、平成28年の8月と10月、同館において「怪談読み聞かせ」の企画を行った。

8月20日(土)と23日(火)の2日間は昼下がりの時間に、学生3名が組になって、怪談を題材とした絵本や小泉八雲にちなんだクイズなどをして、参加者と楽しく、ひんやりとした時間を過ごした。10月23日(日)と29日(土)はこの時期松江で催されている水燈路に合せて、夜の7時から行った。

いろいろな怪談絵本を取り上げたが、特に八雲の『雪女』は伊勢英子さんの絵になるものを4回とも取り上げ、学生たちも読むたびに雪女の世界に惹きこまれていくようだった。学生たちからは、「小泉八雲記念館で怪談読み聞かせをするのは、ホラーな雰囲気があり、絵本の怖さが強調されたようで、とても楽しかったです」「普段は明るい場所で読み聞かせをしているので、薄暗い中での読み聞かせは新鮮でした」「2回連続で読み聞かせに来てくれた子供たちもいて、そのことが一番嬉しかったです」などの感想があった。



この企画は、記念館と協力して、今後もぜひ続けていきたい。



絵本の読み聞かせ —忌部小学校を訪問—

毎週金曜日の朝、総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生たちは、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしています。1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合います。平成21年度から継続しており、学生の乗ったおはなしレストラン号に子どもたちは手をふってくれます。待機場所の図書室から眺める四季折々の山の風景も心をやさしくしてくれます。



山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲 —文化情報誌制作II—

総合文化学科では、学科発足前年の2006年から、教育活動のひとつの柱として文化情報誌『のんびり雲』の制作に取り組んできました。年に1回、10月半ばの発行で、頁数は90頁前後、全頁カラーで写真をふんだんに掲載しており、寝転がって読める楽しい雑誌です。昨年(2016年)の秋には第10号を発行しました。

本誌は学生と教員が共同で制作にあたりますが、企画、取材から原稿執筆、誌面制作に至るまで、印刷・製本以外のすべての作業を自力でこなしているのが特徴です。誌面のレイアウト・デザインもパソコンを使って自分たちで行います。

毎年20人前後の学生が制作に参加します。総合文化学科のカリキュラムには「文化情報誌制作II」という科目があり、その授業内容は「『のんびり雲』の制作」。2年生向けの配当科目で、この科目を取って記事を書くことで単位がもらえます。1年生は授業としてではなく、サークル活動のような形で『のんびり雲』の制作に参加します。

本誌の合い言葉は「山陰の『小さな文化』を楽しむ」です。有名な文化財・文化遺産ではなく、地味で平凡な、身近にあってなかなか注目されることのない「小さな文化」を見つけて楽しもうというわけです。対象地域は山陰両県で、ほとんどの記事は学生たちが実際に現地に足を運んで(教員が同行します)、取材して書きます。



『のんびり雲』最後の販売会の様子

『のんびり雲』は事情により第10号をもって休刊することになりました。創刊準備号からの11年間に制作に携わった学生は延べ204人、取材力所は177カ所、刊行した11冊の総ページ数は968頁に上ります。



地域志向研究活動一覧 (平成24~28年度)

学科名	vol.5 掲載頁	研究タイトル(研究年度) 研究助成等	学内研究者※役職名は該当最終年度現在 連携研究者(機関・協力者)
健康栄養学科	3	西条ガキ熟柿ピューレを用いたドレッシングの開発(H28~) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 (株)ローソンの産学官連携によるスイーツ&ベーカリー商品化(H28~) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費 島根県産食肉の特性分析~調理加工品の食感についての検討~(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究) 農畜産物の特性を生かした調理加工品に関する研究(H28) 島根県共同研究/教員個人研究費 まつえ宝刀の開発(H28) 教員個人研究費/まつえ農水商工連携事業 「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産」に係る牛肉品質の評価 (牛肉の保水性と調理前後の物性・組織学的特性との関連調査)(H28) 島根県受託研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義 籠橋有紀子准教授 株式会社ローソン/島根県政策企画監査 籠橋有紀子准教授/石田千津恵助教/川谷真由美助手 籠橋有紀子准教授 島根県産業技術センター 永田善明科長・大渡康夫主任研究員 籠橋有紀子准教授 まつえ農水商工連携事業推進協議会 籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員
	6	食育ホームページを活用した若い世代を対象とした食育の効果の検証(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)/島根県受託研究	川谷真由美助手/名和田清子教授/直良博之教授 島根県健康推進課
	2	鳥獣対策研究を活かした地域への展開~「しまね三味ソビエ・ガンボスープ」の商品化~(H27~) 学術教育研究特別助成金研究/まつえ農水商工連携事業/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 まつえ農水商工連携事業推進協議会/カレー工房ダーニャ/ 島根大学教育学部附属小学校
	5	有機栽培米の特性解明(H27~H28) 教員個人研究費/島根県共同研究	籠橋有紀子准教授 島根県農業技術センター 山本朗主任研究員
	5	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性解析及びテクスチャーを中心とした官能試験(H27~H28) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター 田中互専門研究員
	6	島根県の食育を推進するための食育媒体の開発(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	名和田清子教授/安藤彰朗教授/直良博之教授/水珠子助教/ 葉迫靖子嘱託助手/三木成美コーディネーター/ 手島由美子主任看護師 赤浦和之教授
		西条ガキ熟柿ピューレを用いた食品の開発(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 高クリプトキサンチン熟柿ピューレの生産(H27) 学術教育研究特別助成金研究	赤浦和之教授
		高齢者におけるMNA®-SFを用いた非災害時(平時)における栄養アセスメント結果 -浜田市の高齢者健康・栄養調査から-(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究/ 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
		浜田市高齢者の食事評価とEARカットポイント法を用いた不足の割合(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究/ 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
		浜田市高齢者の習慣的な身体活動状況(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究/ 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
		食事バランスガイドの概念を用いた浜田市高齢者の食事評価(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究/ 学術教育研究特別助成金研究	酒元誠治教授/川谷真由美助手/三木成美コーディネーター 島根県浜田市
		食肉の特性を生かした調理加工方法の検討(H27) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子
		島根県産米の特性分析~品種間および栽培方法の差異に着目して~(H27) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	籠橋有紀子准教授 島根大学生物資源科学部 山岸主門
		「石見銀山和牛」の生産に係る牛肉品質の評価(H27) 島根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県農業協同組合石見銀山地区本部 土江博
		「新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産」に係る牛肉品質の評価(H26~27) 島根県受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成伸伸久科長
	6	島根県におけるITを活用した食育ネットワークシステムの構築(H26) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	名和田清子教授/安藤彰朗教授/直良博之教授/ 石田千津恵助教/水珠子助教/川谷真由美助手/ 片寄(三木)成美コーディネーター/手島由美子主任看護師
	5	有機農業推進のための技術開発プロジェクト 将来の島根農業を支える商品づくりプロジェクト(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	名和田清子教授/健康栄養学科教員 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター
		西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義
		西条ガキ冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿生産技術の開発(H26) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授
		国体候補高校生に対する食事調査・栄養診断・栄養指導事業(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	酒元誠治教授
		しまね和牛肉の食肉加工方法の検討について~加工材料の検討~(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	籠橋有紀子准教授/川谷真由美助手 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員
		島根県産米の消費拡大を目指した特性分析~松江市西長江の栽培方法に着目して~(H26) 教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 島根大学生物資源科学部 山岸主門准教授
	6	「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究(H25~) 学術教育研究特別助成金研究	石田千津恵助教 島根県健康推進課/島根県食生活改善推進協議会
5	島根県産「つや姫」の生産・販売拡大に向けた取り組み(H25~26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究/島根県受託研究	名和田清子教授/健康栄養学科 島根県農産園芸課/島根県農業技術センター	

健康栄養学科	大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発(H25) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	名和田清子教授/川谷真由美助手/小柏道子教授/ 坂根(石田)千津恵助教/手島由美子主任看護師 松江市 片山郁子・松尾玲子/株式会社おいしいハート 桶谷恵美子
	西条ガキ熱柿ビュレ商業化生産のための温度管理技術の開発(H25) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	赤浦和之教授
	加熱と高速撹拌が西条ガキ熱柿ビュレのビタミンC含量および抗酸化能に及ぼす影響(H25) 学術教育研究特別助成金研究	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義
	しまね和牛を利用した高齢者向けの食肉開発の試み(H25) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	籠橋有紀子准教授/坂根(石田)千津恵助教/水珠子助教/ 川谷真由美助手 鳥根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長・ 高野彰文主任研究員
	早期出荷された牛肉の品質評価手法の検討～肉質の理化学分析～(H25) 鳥根県受託研究	籠橋有紀子准教授 鳥根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員・成相伸久科長

保育学科	8 保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入研究(H28～) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/梶間奈保講師/矢島毅昌准教授 松江市立栴蓮幼稚園長 泰昌子/松江市立城東保育所長 福頼美恵子
	保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究(H28～) 益田市・鳥根県立大学共同研究事業	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌講師/福井一尊准教授 益田市教育委員会/益田市保育研究会
	9 川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト(H27～) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授 川本町教育委員会(川本町立川本小学校・川本町特別支援連携協議会)/ 社会福祉法人川本福祉会(川本保育所・因原保育所・川本北保育所)
	26 保小中連携によるwebシーズマップを活用した「ふるさと教育」の開発(H27～) 益田市・鳥根県立大学共同研究事業/北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌講師/福井一尊准教授 益田市教育委員会/益田市保育研究会
	10 児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施(H27～) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	藤原映久准教授 鳥根県(中央児童相談所)/児童養護施設 安来学園
	8 音への興味関心を育む研究-「音の絵本」をとおして(H27～28) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	梶間奈保講師
	鳥根県における子ども・子育て支援新制度開始の動向(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岸本強教授/藤原映久准教授 鳥根県健康福祉部青少年家庭課/松江市教育委員会生涯学習課/ 益田市教育委員会社会教育課

健康栄養学科	4 ライフステージを通じて摂取する脂質栄養のコントロールによる糖尿病予防・ 治療に関する研究の活用(H23～) 新産業創出研究会助成研究/学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 鳥根県畜産技術センター 土江博
	3 西条柿熱柿ビュレを使ったキーマカレーの商品化(H23～28) 教員個人研究費	赤浦和之教授 まる福農園 福岡博義
	4 しまね三昧食品科学研究所(籠橋研究室)～鳥根県内農産物で美味しく地域活性化～(H18～) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究/COCLまね地域共有・ 共創研究助成金研究/鳥根県受託研究/鳥根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究/ 教員個人研究費	籠橋有紀子准教授 鳥根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員/鳥根県畜産課/ 鳥根県農産園芸課/鳥根県農業協同組合石見銀山地区本部
	8 保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入研究(H28～) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/梶間奈保講師/矢島毅昌准教授 松江市立栴蓮幼稚園長 泰昌子/松江市立城東保育所長 福頼美恵子
	9 川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト(H27～) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授 川本町教育委員会(川本町立川本小学校・川本町特別支援連携協議会)/ 社会福祉法人川本福祉会(川本保育所・因原保育所・川本北保育所)
	26 保小中連携によるwebシーズマップを活用した「ふるさと教育」の開発(H27～) 益田市・鳥根県立大学共同研究事業/北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授/鹿野一厚教授/矢島毅昌講師/福井一尊准教授 益田市教育委員会/益田市保育研究会
	10 児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施(H27～) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	藤原映久准教授 鳥根県(中央児童相談所)/児童養護施設 安来学園
	8 音への興味関心を育む研究-「音の絵本」をとおして(H27～28) 学術教育研究特別助成金研究/教員個人研究費	梶間奈保講師
	鳥根県における子ども・子育て支援新制度開始の動向(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岸本強教授/藤原映久准教授 鳥根県健康福祉部青少年家庭課/松江市教育委員会生涯学習課/ 益田市教育委員会社会教育課
	14 民話蘇生研究-匹見の民話の伝承-(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授/岩田英作教授/高橋純教授 鳥根県名誉教授 田中瑩一/益田市教育委員会/ 松江市立匹見中学校/松江市立道川小学校/道川公民館
	地域の自然と児童文化財を活用した保育者養成プログラムの原理と方法に関する研究(H26～28) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	矢島毅昌准教授
	9 鳥根県の障害児発達支援における人的環境の課題-専門職研修プログラムの開発研究-(H26) 教員個人研究費	山下由紀恵教授/山尾淳子コーディネーター
	障がい者との共生社会における美術館鑑賞のあり方についての研究(H26) 学術教育研究特別助成金研究	福井一尊准教授 岡山県立美術館/岡山県立大学
	地域の子どもを取り巻く児童文化財の現状をふまえた保育者養成プログラムの展開(H26) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	福井一尊准教授

総合文化学科	父親による読み聞かせの実態(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	岩田英作教授/マユーあき教授/尾崎智子司書/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
	鳥根の民話の保存と整理-ふるさと郷育(教育)への活用に向けて-(H28) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	岩田英作教授 鳥根県名誉教授 田中瑩一
	志賀直哉『濠端の住まい』に見る(自然)-松江がもたらしたもの(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
	芥川龍之介の松江体験-失恋と『羅生門』誕生のあいだで-(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
	フォニックス教材開発及び作成(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	ラング クリス准教授/キッド ダスティン講師/小玉容子教授
	戦後復興期における松江の観光に関する研究(H27～) 学術教育研究特別助成金研究	工藤泰子准教授 松江市史料編集室
	鳥根県における伝説の研究(H27～) 教員個人研究費	山村桃子講師
	20 小学校での「英語読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語 多読の導入の方法および効果(H27) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	小玉容子教授/キッド ダスティン講師
	14 鳥根の民話の保存と整理-石見地方の民話の語り手について-(H27) 学術教育研究特別助成金研究	岩田英作教授
	「読みメン」の実態調査～男性の育児参加の向上をめざして～(H27) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	岩田英作教授/マユーあき教授/尾崎智子司書/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
	16 松江市の観光振興に向けた取組み-地域志向科目における実践-(H27) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 NPO松江ツーリズム研究会
	『出雲国風土記』の英語研究<H26～28> COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	松浦雄二教授/ラング クリス准教授/山村桃子講師/キッド ダスティン講師 鳥根県立大学短期大学部名誉教授 藤岡大拙
	大学付属の児童図書専門図書館の調査-おはなしレストランライブラリーの有効活用に向けて- (H26) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	岩田英作教授/マユーあき教授/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
	学生の視点を活かした観光振興の可能性を探る-雲南市吉田町を事例に-(H26) COCLまね地域共有・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所

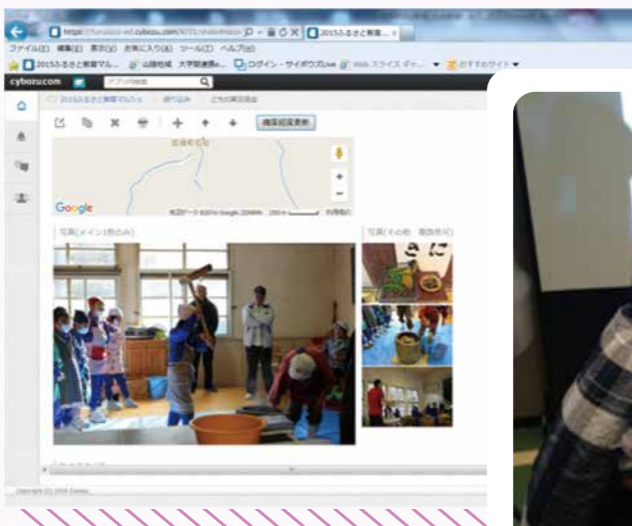
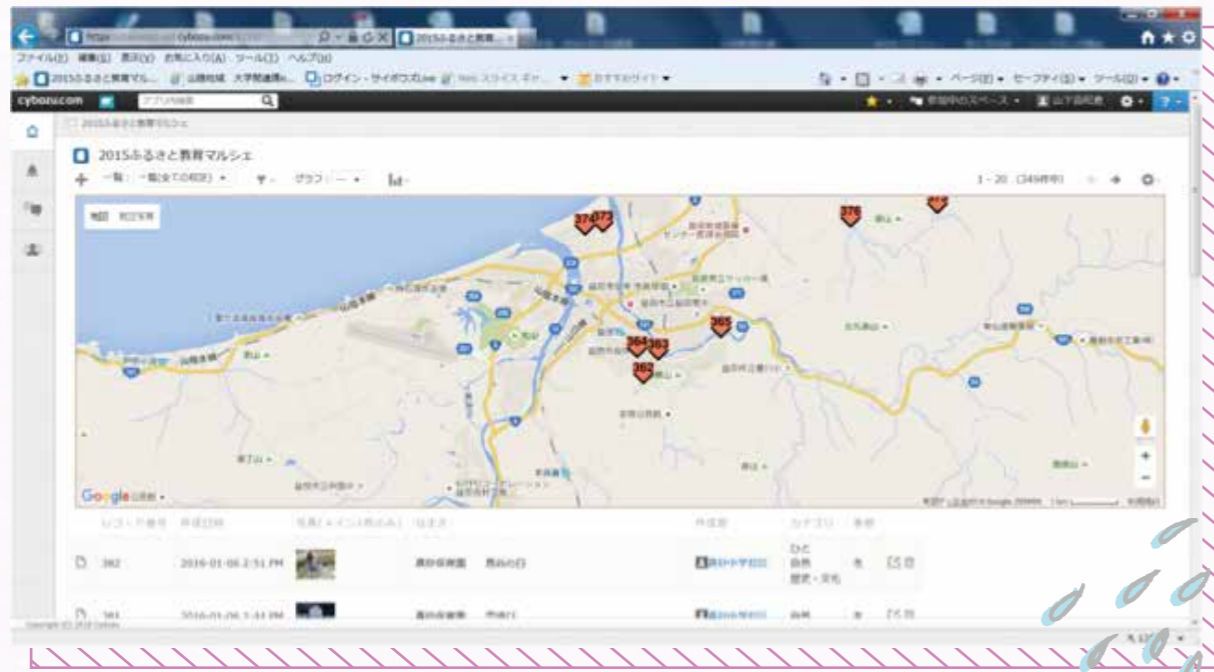
地域志向教育活動一覽 「地域研究と教育vol.5」

学名	学科名	vol.5 掲載頁	タイトル(教育活動年度)	学内研究者 ※役職名は平成28年度現在 連携機関・協力者
健康栄養学科	保育学科	5	小さなブランド化の可能性調査(H27～28)	酒元誠治教授/鳥根県立大学総合政策学部 豊田知世講師 邑南町定住促進課
		7	小学校での食育授業(H19～)	直良博之教授/川谷真由美助手/水珠子助教/葉道靖子嘱託助手 乃木小学校 倉敷徳子教諭/能義小学校 田中奈津美教諭
		7	患者会への参加(H17～)	名和田清子教授
		10	小学校での「図画工作」特別授業-文化庁派遣事業-(H28)	福井一尊准教授 鳥根県民会館
		10	鳥根県障がい者アート作品展(H23～)	福井一尊准教授 鳥根県社会福祉協議会
		11	鳥根県保育所(園)・幼稚園造形研究会(H19～)	福井一尊准教授 鳥根県
		11	松江保育研究大会(H26～)	小山優子准教授/矢島毅昌准教授 松江市
		11	松江保育研究会造形展(H21～)	福井一尊准教授 松江市
		12	第43回はいくまつり(S49～)	保育学科 しまね文化振興財団
		13	松江「子どもとメディア」対策協議会への協力(H27)	福井一尊准教授 松江市
		15	小泉八雲記念館との連携(H28～)	小泉凡教授
		16	明治時代の文化財「興雲閣」-歴史的建造物の検証・インテリアと文化-(H26～)	藤原由香准教授

保小中連携による 「ふるさとを基盤にした教育」の開発

- ▶ 北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト研究)研究
- ▶ 益田市・島根県立大学共同研究事業

本研究は、平成26年度までに行われた益田市保育研究会(ふるさと教育研究委員会)・益田市教育委員会との共同プロジェクト研究「Webシーズ・マップ」開発をもとに、さらに実践的に「Webシーズ・マップ」を活用し、地元の保育所・小学校・中学校で行われる、人生最初の15年間の「ふるさと基盤教育」を連携させることを目指している。益田市をモデルとしつつ、地域研究や保育研究に関わる専門職、そして社会教育に関わる地元団体が共同プロジェクトを組んで、地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす「ふるさと基盤教育」のカリキュラムの開発へと研究をすすめている。



公開講座「椿の道アカデミー」 —研究成果を生涯教育へ—



1992年に「短大火曜講座」としてスタートした松江キャンパス公開講座は、今年で24年目を迎えました。公開講座にはのべ1500人近い受講者が参加し、社会人の生涯教育の場として地域に定着しています。2016年度は14講座が開講され、内9講座が松江市民大学との連携講座、さらに2講座が、松江ツーリズム研究会、履修証明プログラムとの連携講座です。

2016年度は、人気講座「大人のための源氏物語」のほか、「健康とアンチエイジング」「英語絵本の音読と『英語多読』に挑戦」「保育と教育の社会学」、文化資源探求講座の「新小泉八雲記念館探訪ツアー」など多様な構成となりました。

今後も公開講座の開催を通して、広く地域の皆様に学び楽しむ場を提供していきます。



平成28年度開講 社会人のための「履修証明プログラム」8つのコース

平成25年に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」により、島根県立大学短期大学部松江キャンパスでは、社会人のための「履修証明プログラム」を開講しています。

平成28年度からの2年間で学ぶ8つのコースが開講となり、「健康栄養学科」「保育学科」「総合文化学科」にかかわる「地域の専門職、専門的な学びに意欲のある社会人」に応えるプログラムを開講しています。

プログラムの1コースは120時間以上の履修になりますが、コースを10数時間から30時間程度に分割した「単元」ごとに学ぶことができます。一部の単元は、講義のほとんどをインターネットを使ったeラーニングで学び、10分から20分程度の受講の積み重ねで履修できるよう、忙しい社会人の生活に合わせたプログラムとなっています。対面講習や公開講座を組みこんだプログラムも含まれています。



平成29年度での履修については、松江キャンパスのホームページでご覧いただけます。

島根県立大学 社会人の学び <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/communication/coc/coc/>